

「SARSと春節」(2020・1・25)

★中国武漢で発生した新型肺炎が拡がりを見せています。終息の兆しが見えません。中国では春節を迎え、30億もの人が大移動を始めると報じられています。武漢の行政は封じ込め作戦で拡散を防ぐ対策を講じています。果たして終息につながるでしょうか。

★今回の肺炎騒ぎは18年前のSARSの時より、ものものしい雰囲気です。マスク、うがい、手洗いは同じですが、防護服に身を固めた職員を総動員し、交通手段をすべて閉鎖、内外への移動を禁止するなど、前回にはなかった厳戒態勢です。WHOはまだ緊急事態には当たらないと静観です。

★原因がはっきりしないのが、何よりも不安材料です。当初、野ネズミが原因だと発表されました。中国人は四つ足なら何でも食べます。この説はありそうな話ですが、その後人から人へ感染することが明らかになりました。

★武漢は自動車の生産拠点です。日系企業が約160社、駐在員が約500人います。春節の大移動に加え、ビジネスマンの往来もあります。日本だけでなく世界各地に大勢の人が移動することが予想されます。水際作戦で食い止められるかは大きな疑問です。夏にオリンピックを控え、日本での大流行が懸念されます。香港大の教授は、死者はSARSの10倍を超えと言っています。

★このニュースを聞いて、2002年末に発生したSARSを思い出しました。2003年4月13日から5泊6日で、友人7人とシンガポールとビンタン島に行きました。4月3日、外務省からSARSの情報が発表され中国、香港、台湾、シンガポールへの渡航について、注意勧告が出ました。

★旅行の計画は2ヶ月前に決定していました。出発直前の勧告に戸惑い、同行者とどうするか相談しました。今更中止出来ない、罹ったらそれまで、とマスク持参で出掛けました。

★キャンセルが相次いだらしく、機内は空席が目立ちました。現地に着くと、空港は閑散としていました。観光地やレストランも空いていて、待たずに入りました。現地は落ち着いた雰囲気です。



マスクは1人だけ



人気のない街並み



ビンタン島ビーチ

マスクをしている人はそれほど見かけませんでした。われわれもマスクをせずに観光しました。

★シンガポールだけでなく、 Batam 島、ビンタン島など人混みのないリゾートを巡ったこともSARSを気にせずに済んだ理由かもしれません。

最終日、旧友の現法社長の招待で高級中華料理店「レイ・ガーデン」でフルコースをご馳走になり、



レイ・ガーデンで

SARS騒ぎも忘れて、全員大満足で帰ってきました。

★2005年1月29日、横須賀国際交流協会の理事・ボランティア9人で上海に行きました。プライベート旅行でしたが、せっかくの機会なので、現地で国際交流をしようと、県に訪問先の紹介を依頼しました。紹介されたのが上海YMCAでした。

★1月30日、YMCAを訪問、熱烈歓迎を受けました。呉理事長の案内で高齢者の支援活動の様子を見学し、その後先方の幹部たちとそれぞれ



意見交換会

ぞれの活動について意見交換しました。呉さんは日本語が堪能で、屢々来日している親日家でした。



上海YMCAビル

★1月31日には横浜市の上海事務所長と夕食を共にしながら、中国の最新情報について説明を受けました。

★公式行事とは別に、フリータイムを利用して寒山拾得で有名な蘇州に行く計画でした。JTBに切符の手配を頼んだところ、中国は春節の時期なので、入手は難しいと断られてしまいました。現地に行けばなんとかなるだろう、と安易に考え出発しました。

★上海YMCAのビルは上海駅の目の前にあります。そこから人民広場が見渡せます。広場には切符を買う人や大きな荷物を背負った帰省客と思しき家族連れなどで、足の踏み場もないほどごった返していました。徹夜組のテントも数多くありました。飛び込みで切符を買うなど到底不可能だと、考えが甘かったことを反省しました。

★呉理事長に、蘇州に行くつもりだったが、これではとてもムリですね、と話したところ、私の方で当たってみますよ、と引受けてくれました。半信半疑でいたところ、夕方、ホテルに取れました、と連絡がありました。それも軟座(1等車)の往復指定席でした。言葉が通じないと困るだろうと、日本語の



東洋のベニス蘇州



寒山拾得の寒山寺



蘇州駅プラットフォーム

分かる女子大生を通訳として付けてくれました。

★当時、列車には軟座と硬座(2等車)があり、軟座の乗客は特別待合室で出発ギリギリまで寛ぐことが出来ました。階級社会を象徴するかのようでした。

★理事長の権限の大きさに驚くと同時に、至れり尽くせりの心配りに感謝して、蘇州観光を楽しんで来ました。

★SARSと春節の思い出です。



手前左ハチングはYMCAの女子大生